



全国大会を終えて



第23回全国大会
米子大会
大会実行委員長
足立 耕太郎

まず以って、第二十三回全国大会米子大会が無事、盛大に開催させていただく事が出来ました。本日に商工会議所をはじめ、関係機関、諸団体、OBの皆様、ご協賛企業の皆様、そして他ならぬ全国のYEGの皆様にご心より御礼申し上げます。

この度、開催地米子を中心とした全国で一番小さい三単会の鳥取県が、全国大会を主管する事は、鈴木会長が言われる「無茶はいけないが無理をしてみよう」の言葉とおりの道のでした。無謀とも思えるこの取り組みを、商青連をはじめ全国の皆様には本当にご心配をお掛けしたと思います。しかし、自分から自分らしく、大会を機にもう一度自分たちの故郷を見つめ直す素晴らしい時間を与えていただきました。「大都会に真似の出来ない、発想の転換をしようじゃないか」と実行委員会、約

一年間かかって皆の意見の到達したコンセプトです。我々のできる事には限りがあります。

す。我々のできる事には限りがあります。しかし、我々にしか出来ないこともあります。それは、精一杯の笑顔でおもてなしを徹底的にする事です。「この地に来ていただいた皆さんと出来るだけ触れ合い、語り合い、そしてもう一度この鳥取県に大事な家族、社員の方々と来ていただける大会を目指そう」とメンバー全員が力を束ね、この大会を向える事が出来ました。この思いが早くも全員に伝わった。この時間はかきませんでした。それは少人数、三単会しかない二五〇人のメンバーだったからです。この少数はデメリットであるが、メリットにもなりえました。私は常に「思いは届く、夢は叶う」を座右の銘とし、様々な無理難題を実行委員会に投げつけ、わがままを通していただきました。本当にメンバー全員には感謝しきれません。

その一つとして一年前より大会記念講演に、大韓民国前大統領、金大中氏に参加を依頼し、筑紫哲也氏と片山知事との三者による、鼎談を企画しました。当初は誰にも相手にされず苦労しましたが、「この地方都市で実現することこそ意義がある」と説得し、日商、商工会議所、鳥取県、米子市と最後にはひとつにまとまり、熱い情熱を持って交渉が始まり、9月には鈴木会長、知事、市長の親書を持参し訪韓しました。しかし十月に残念な

から結果は「体調不良のため来日を見合わせる」と一報が入り、涙を飲みました。しかし、この米子大会の意義が充分伝わったのか、米子大会へのメッセージを頂ける上、夢の鈴木会長との対談も約束して頂き、急ぎよ十月三十一日、大会一週間前に実現しました。この時の感激は、なにもにも換えられないものでした。大会当日は、諸会議の開催と同時に三つの分科会を実施させていただきました。

境港分科会は、鬼太郎列車でノスタルジックな街、境港の水木しげるロード、水木記念館、松葉ガニの試食と、大入り袋が出る盛況で、米子分科会は「逆転の発想がビジネスを変える」をテーマに超辛口、春山満氏のトークに感激し、大山分科会では花回廊館長自ら講演していただき、晩秋色鮮やかな大山を巡り自然を満喫していただきました。

大懇親会は、米子らしく派手な演出？で地産地消を基本に4会場を様々な食材で楽しんでいただき、ブロック大会同様、実行委員長の歌で始まり縁満開バンドで閉めさせていただきました。二次会は歓楽街朝日町がYEG色に染まり全国の友情の交流が、夜が明けるまで続きました。

大会二日目の式典は、厳肅かつ米子らしく環日本海交流を散りばめた会場満席の中、御来賓の挨拶はもとより、次年度「帯広」への大会旗の授与に至るまで感動的なものでした。

講演会は「ニュース23」のテーマの演奏者に出演をお願いし、まさにこの米子大会で筑紫哲也氏と片山知事の夢のビック対談を「ニュース23」そのままのリアルタイムで、「逆転の発想」を語っていただきました。限られた時間でしたが、参加者メンバーには素晴らしいひと時を過ごしていただいたと思います。

大会を通じて、ビジネス交流プラザでは全国から元気ある「逆転の発想」をテーマとした成功事例として新しいビジネスチャンスの提案を、全国まちおこし物産展では地元の物産を中心に全国から四十店舗の出展があり、抽選会やスタンブラリー等、様々な工風がなされ述べ一万人の参加者となりました。エクスカージョンも高知YEGの友情ある協力をいただき、「竜馬と土佐の食(酒)文化体験ツアー」を銘打ち、五〇名を超える参加者で大いに盛り上げていただきました。

振り返れば反省すること幾千かですが、ただ天候が三日間秋晴れで暖かく、大きな事故もなくほとんどクレームがなかったことがいちばんの喜ばしいことです。

最後にこの少ないメンバーの対応に、全国の皆さんにおもてなしが行き届かなく、大変ご迷惑をお掛けしたと思います。この場をお借りして本当に申し訳ありませんでした。そして暖かい友情をありがとうございました。また是非、この地でお逢いしましょう。

では、鳥取にきたらう！ “だんだん”

